

合掌村 概要

下呂温泉合掌村では、下呂温泉の来訪客は入浴を一休みして、地域の 19 世紀の歴史について学ぶことができます。この村は屋外博物館で、10 棟の合掌造りの家屋が立ち並んでいます。これらの家屋は、岐阜県北部の白川郷と富山県南砺市五箇山地方から移築されたものです。合掌造りとは、「合掌している両手のような構造」という意味です。家屋の屋根の骨組みの丸太がなす急な三角形が合掌している両手のように見えることからこの名がつけられました。

このような伝統的な村落の家屋は、岐阜県北部と富山県南西部で 19 世紀に建てられました。どちらも冬には雪深い地方です。合掌造りの家屋は文化財に指定されており、この村以外でも岐阜県の至る所で保存されています。中には内部が改装されて、今では工房や博物館となっているものもあります。しかしその他のものは、旧大戸家住宅のように、当時のまま保存されており、岐阜県の村落での伝統的な暮らしを垣間見ることができます。

合掌村にはどの季節でも風光明媚な景色が広がっています。例えば冬には、家屋の急な屋根が雪に覆われた象徴的な景色が見られます。家屋の見学だけでなく、来訪者は地元の手芸や陶芸を学べるハンズオンのワークショップに参加することができ、また合掌村で展示されるタイルの装飾を行うこともできます。円空館では、岐阜生まれの僧だった円空の作品が展示されています。円空はその一生を、木彫りの仏像の制作に捧げました。昼食には、いくつかの飲食店では岐阜の名産品が提供されます。例えば、ゆっくりと炭火で焼き上げた串刺しの鮎（アユ）などです。